令和5年度10月定例記者会見
2023年10月19日

「常備薬」としてのミュージアム

北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム

報告者

今村信隆

（北海道大学文学研究院准教授）

卓彦伶

（北海道大学文学研究院特任准教授）

Presentation Agenda

+plus Museum Program

01 はじめに
プラス・ミュージアム・プログラムについて

02 エクスカーション・シンポジウム
ミュージアムからはじまる共感の文化圏（夕張市）

03 エクスカーション・シンポジウム
記録と記憶－地域を活かすコミュニティ・アーカイブ－（厚真町）

04 シンポジウム
観光客が訪れる場をこえたミュージアムの役割

05 インタビュー・シリーズ

06 今後の展望

０１　プラス・ミュージアム・プログラムについて

北大とミュージアム

学芸員養成課程の運営と実績

- **文学研究院が主担当部局**となり、理学院、水産科学院、教育学院等と連携。過去10年間に**500名以上**の学芸員資格取得者を輩出。

各地で活躍中！

北大出身の学芸員の主な就職先

北海道博物館,北海道立近代美術館,北海道立旭川美術館,北海道立帯広美術館,札幌芸術の森美術館, 神田日勝記念美術館,苫小牧市美術博物館,小樽市総合博物館,市立小樽文学館,帯広百年記念館,小川原脩記念美術館,ニセコ町有島記念館,士別市立博物館,洞爺湖有珠山ジオパーク,北海道立北方民族博物館,豊浦町博物館,釧路市立美術館、斜里町立知床博物館、宮城県立美術館, 山梨県立美術館,島根県立美術館, 島根県立石見美術館,泉屋博古館,大阪市立自然史博物館,神戸市立博物館,和歌山県立博物館,長野県信濃美術館東山魁夷館,九州歴史資料館,金沢21世紀美術館,鹿児島県埋蔵文化財センター, 国立民族学博物館, 韓国国立中央博物館,フィリピン国立博物館　など

北大総合博物館の活動

- 多数の来館者が訪れる国内屈指の大学博物館

※コロナ前には年間20万人以上が、**2022年度も年間18万人以上**が訪れている。

- ミュージアムマイスター認定コース、パラタクソノミスト養成講座など、独自の教育プログラムをもつ。

文学研究院の活動

- 国立大学としては全国的に珍しい「博物館学研究室」が2019年に設置され、各地から学生が集まりはじめている。
- 卒業生・修了生の声から生まれた、**北海道大学学芸員リカレント教育プログラム**（2018 - 2020年）を行ってきた実績。

學藝
リカプロ
Museum Curators' Recurrent Education Program: Planning, Management, Evaluation
2018-2020

学芸員を中心に約40名が参加

受講者のなかには…

北海道立近代美術館、北海道博物館、北海道立帯広美術館、北海道立旭川美術館、釧路芸術館、札幌芸術の森美術館、モエレ沼公園、本郷新記念札幌彫刻美術館、小川原脩記念美術館、苫小牧市美術博物館、神田日勝記念美術館、札幌市市民交流プラザ、ニトリ小樽芸術村、様似町郷土館　などの**現役学芸員や職員**

＋　公民館職員、大学図書館司書、公文書館職員、まちづくり系NPO職員

＋　ミュージアムグッズ愛好家、在野の美術史研究者など

＋　参加していた大学院生のうち２名は学芸員として就職

本事業の背景

国内外の機運 TREND

ミュージアムへの新たな期待が高まっている

- 2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
- **さまざまな課題**への貢献が、従来以上に注目されつつある。

現状の課題 NEEDS

新たな人材の必要性に対応できていない

- 他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、従来の「専門知」に加えて、より広範な「総合知」の活用が求められている。
- しかし、現実には、中・小規模の館を中心に、ミュージアムへの期待に追いつけない現場も。

社会的課題解決のハブとしてミュージアムがこれまで以上に機能するために新たなミュージアム人材が必要！

参加者の特色

- 社会教育系専門職
- 文化施設の職員
- 自治体、NPO等の職員
- 学芸員を目指す大学院生等
- 学芸員経験者・休眠学芸員
- ミュージアムに強い関心をもつ一般市民

各回の参加者のなかには、こんな方たちが…

- **北海道内のミュージアム専門職**
  札幌市博物館活動センター学芸員、札幌芸術の森美術館学芸員、小樽芸術村学芸課長、釧路市立美術館学芸員、北海道立釧路芸術館学芸員、夕張市教育委員会学芸員、だて歴史文化ミュージアム学芸員、釧路市こども遊学館事務局長　など
- **日本各地のミュージアム専門職**
  滋賀県立琵琶湖博物館学芸員、長崎県美術館エデュケーター、広島県立美術館学芸員、十和田市現代美術館エデュケーター、神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員　など
- **自治体、ＮＰＯ法人等の職員**
  留萌市教育委員会生涯学習課、札幌市東区民センター運営委員、伊達市史編纂室、NPO 法人北海道遺産協議会、札幌市博物館活動センター事務職員
- **ミュージアム関係者に強い関心をもつ市民**
  北海道美術史研究者、ミュージアムグッズ愛好家　ほか

事業の特色

**今あるミュージアムをよりよく活かし、
より住みやすい・生きやすい
社会づくりに貢献する**

ミュージアムに！　足してみる

多彩な専門家と
対話する

これまではミュージアムに不足していた、
あるいは縁遠かった領域を積極的にミュージアムに足し算してみる

財政学、会計学、経営学、ブランド論、アーカイブ学などの知見に寄り添い、それらの専門家と対話することで、ミュージアムに今、必要な事柄を発見的に学び合う

ミュージアムを！　足してみる

知見を持ち寄り、
学び合う

社会の様々な課題にミュージアムをプラスし、
ミュージアムならではの課題解決について考える

人口減少と過疎化・高齢化、災害による地域の傷、障害者と地域社会との関係、人びとの幸福といった課題に、ミュージアムとして何が出来るのかを考えていく

120人

51人

40人

64人

36人

41人

96人

115人

19人

96人＋18人

令和4年度

11の公開プログラムに全国からのべ696名が参加

- キックオフシンポジウム、レクチャー、シンポジウム、特論、ワークショップ、クロージングシンポジウムを開催。
- オンラインとYouTube事後視聴も含め、のべ696名が参加

０２　【事例１】ミュージアムからはじまる共感の文化圏

本事業の背景と意義

国内外の機運 TREND

ミュージアムへの新たな期待が高まっている

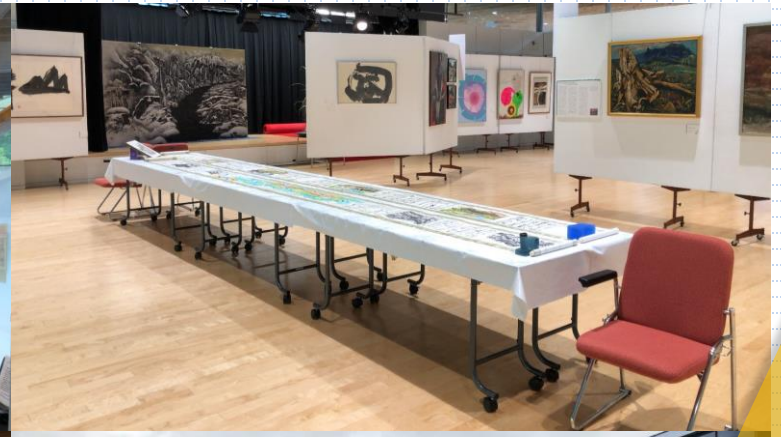
- 2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
- さまざまな課題への貢献が、従来以上に注目されつつある。

現状の課題 NEEDS

新たな人材の必要性に対応できていない

- 他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、従来の「専門知」に加えて、より広範な「総合知」の活用が求められている。
- しかし、現実には、中・小規模の館を中心に、ミュージアムへの期待に追いつけない現場も。

**社会的課題解決のハブとしてミュージアムが
これまで以上に機能するために
新たなミュージアム人材が必要！**



2020年　夕張市拠点複合施設りすた　オープン
2022年、2023年には旧夕張市美術館の収蔵作品展開催

この会場を舞台に、「ミュージアムからはじまる共感の文化圏」を実施

旧 夕張市美術館
2012年2月
積雪の重みで損壊→閉館

ゆっくり
じっくり考える、
草の根の
スロー・
ミュゼオロジー

はじまりの美術館
（福島県猪苗代町）
館長　岡部兼芳氏

八戸市美術館
（青森県八戸市）
学芸員　高橋麻衣氏

夕張市拠点複合施設りすた
（北海道夕張市）
学芸員　山口一樹氏

０３　【事例２】記録と記憶 - 地域を癒すコミュニティ・アーカイヴ

本事業の背景と意義

国内外の機運 TREND

ミュージアムへの新たな期待が高まっている

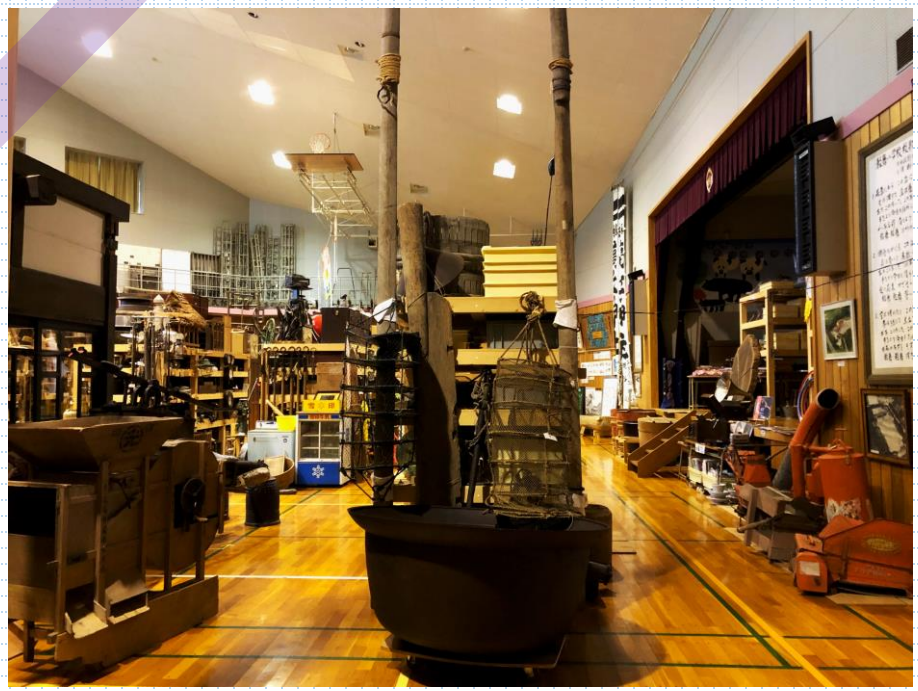
- 2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
- さまざまな課題への貢献が、従来以上に注目されつつある。

現状の課題 NEEDS

新たな人材の必要性に対応できていない

- 他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、従来の「専門知」に加えて、より広範な「総合知」の活用が求められている。
- しかし、現実には、中・小規模の館を中心に、ミュージアムへの期待に追いつけない現場も。

**社会的課題解決のハブとしてミュージアムが
これまで以上に機能するために
新たなミュージアム人材が必要！**



厚真町
軽舞遺跡調査事務所

０４　【事例３】　観光客が訪れる場をこえたミュージアムの役割

本事業の背景と意義

国内外の機運 TREND

ミュージアムへの新たな期待が高まっている

- 2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
- さまざまな課題への貢献が、従来以上に注目されつつある。

現状の課題 NEEDS

新たな人材の必要性に対応できていない

- 他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、従来の「専門知」に加えて、より広範な「総合知」の活用が求められている。
- しかし、現実には、中・小規模の館を中心に、ミュージアムへの期待に追いつけない現場も。

**社会的課題解決のハブとしてミュージアムが
これまで以上に機能するために
新たなミュージアム人材が必要！**

「訪れる」だけじゃない！

ミュージアムと観光の相互作用の可能性。

▶ 2023年9月24日　13:00〜17:00

▶ミュージアムは観光客が訪れる場にとどまらず、地域全体の観光整備および地域ブランディングを支える役割も果たしている。

▶観光施設整備において、歴史的な情報や地域農産品のブランド化に関する学術的な情報を提供する**小樽市総合博物館**と**七飯町歴史館**の事例に加え、特定のテーマに焦点を当てる**大和ミュージアム**が地域観光および地域発展にどのように寄与するかについて取り上げ、ミュージアムが目指すべき文化観光の行方を考えてみた。

小樽市総合博物館
館長　石川直章氏

七飯町歴史館
（北海道七飯町）
学芸員　山田央氏

大和ミュージアム
（広島県呉市）
学芸員　花岡拓郎氏

コメンテーター
（北海道大学文学国際メディア・観光学院）
准教授　石黒侑介氏

０５　【事例４】インタビュー・シリーズ

本事業の背景と意義

国内外の機運 TREND

ミュージアムへの新たな期待が高まっている

- 2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
- さまざまな課題への貢献が、従来以上に注目されつつある。

観光　まちづくり　子育て　社会包摂

過疎・高齢化　災害復興　福祉・健康　人の幸福

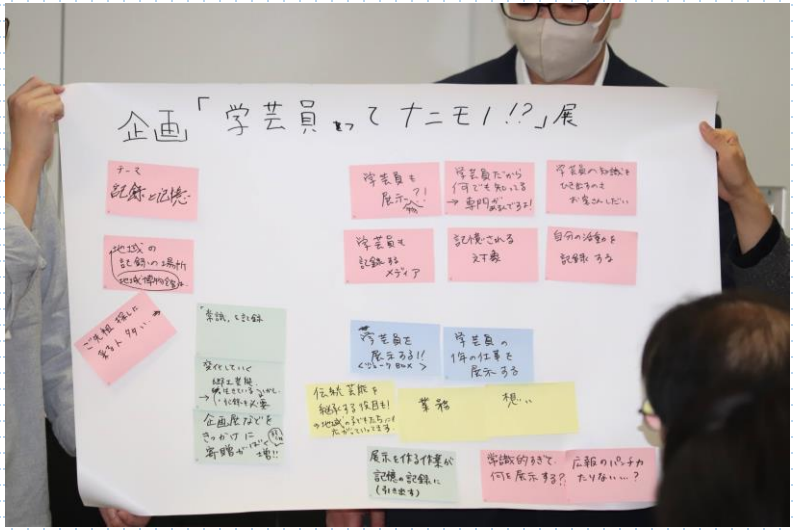
現状の課題 NEEDS

新たな人材の必要性に対応できていない

- 他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、従来の「専門知」に加えて、より広範な「総合知」の活用が求められている。
- しかし、現実には、中・小規模の館を中心に、ミュージアムへの期待に追いつけない現場も。

社会的課題解決のハブとしてミュージアムがこれまで以上に機能するために新たなミュージアム人材が必要！

情報交換会
地域とともにあるミュージアムのあり方を考える



▶2023年2月12日(日)13時～16時

▶学芸員、行政担当者、アーティスト、ミュージアムグッズ愛好家、まちづくり会社・・・計18名

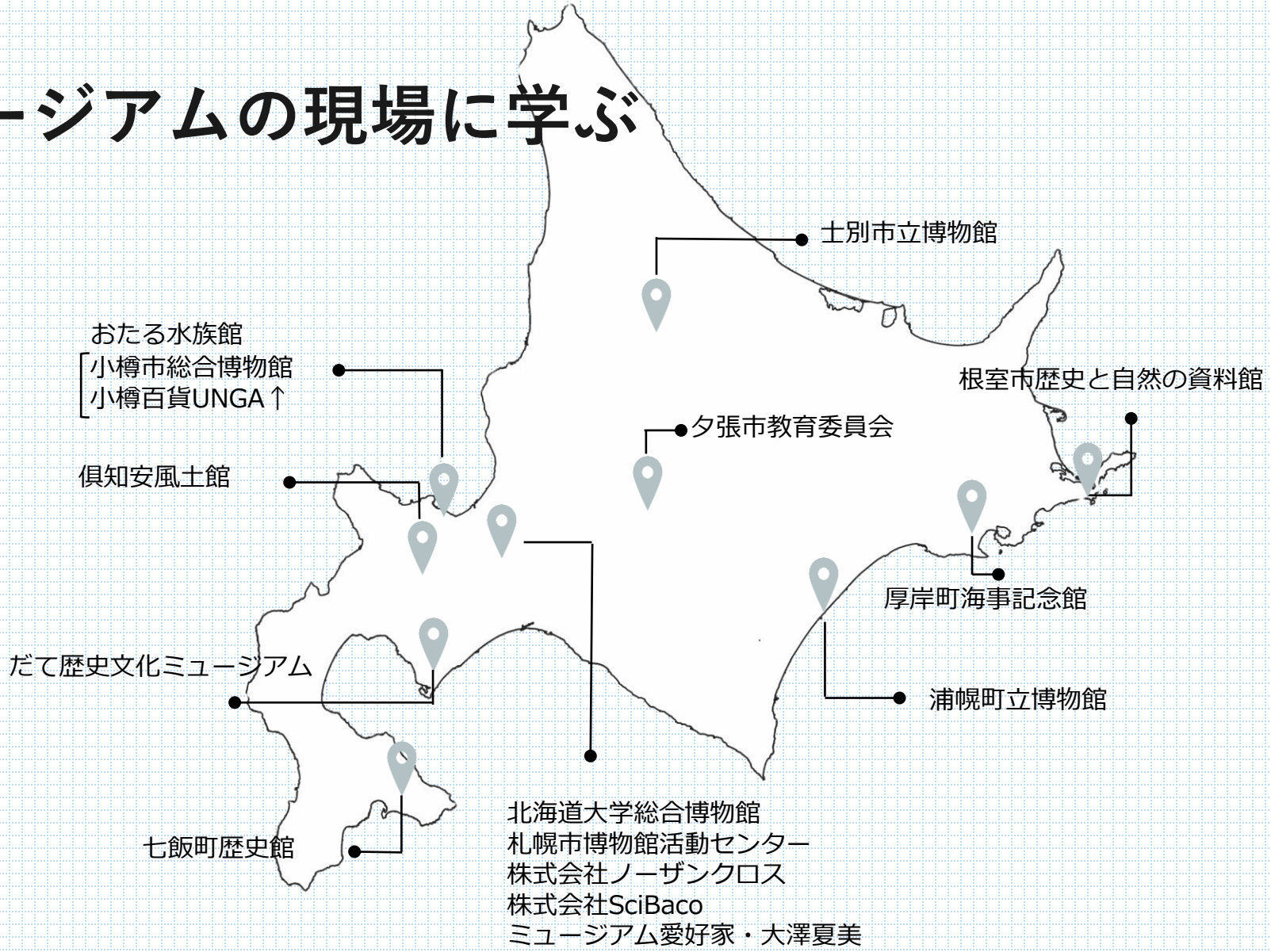
▶「**観光**」「**記憶と記録**」「**社会包摂・文化多様性**」

Insight on Site

地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ

▶ 2023年1月～9月

▶地域社会におけるさまざまな主体と「**対話**」し、地域課題に「**寄り添う**」北海道各地のミュージアム学芸員およびミュージアムに携わる関係者を対象に、個々の課題やそれに対する取り組みに関する知見を集めた企画。



Insight on Site

地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ

インタビューの詳細はこちらから

https://www.let.hokudai.ac.jp/pmp_interview

Insight on Site

地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ

学芸員

水族館営業
推進担当

ミュージアム
×
商品開発

企業担当者

ミュージアムショップ・カフェ

ミュージアムグッズ愛好家

０５　参加者の声と今後の展望

受講者の声

砕けた雰囲気の中、それぞれの思っていること感じていることを情報交換できたのはとてもよかった。設定されたテーマについても、昨今の情勢からミュージアムが今後必要となってくるテーマになっていて、**他館の学芸員がどのように考えている知れたのはとても貴重だった。**

このプロジェクトが企画されなければ、一生行かなかったであろう厚真町軽米遺跡調査整理事務所。すごく心を動かされました。・・・（中略）・・・最後に、地元の方が「これ、生田斗真のサインだよ」とジャンバーの袖のサインを見せて下さり、「アリエールを持って来てくれたんだ。」と笑ったあと、「あの時友達が11人も亡くなった」と話して下さり、胸に迫るものがありました。**地元の方から直接お話を伺えたこと、この事務所がこうした方々の心の支えでもあることがとても有り難く思われました。**

規模や信念の異なるミュージアムを一度に比べられるのは稀有なことなので、とても満足しています。観光といっても、立地の違いで条件が大きく異なるのもわかります。だからこそ、重いミュージアムと軽い観光の複雑な絡み合いは面白かったです。・・・（中略）・・・**観光×文化について学べる場というものが、行政職員やミュージアム職員にたくさんあると、ますますおもしろいミュージアムが誕生しそうなので、そういった場にも、今後期待したくなりました。**

2022年度
↓
2023年度

レクチャー・シンポジウム

2024年1月28日(日)
クロージングシンポジウム「Insight on site 地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ」開催予定。

エクスカーション

ワークショップ

2023年10月~2024年1月
「ミュージアムと観光の新たな関係を創造する」ための少人数ワークショップを実施する。

2024年度
↓

事業成果のアーカイブ化

本学リカレント教育推進部との連携

そのほか学内外リソースも活用していく

☑　ミュージアムをよりよく活かすために、ミュージアムに携わる人材の育成に取り組む

☑　地域ミュージアムに関する研究や教育を通じて、より住みやすい・生きやすい地域社会づくりに貢献する

ミュージアムは、何でも治す「万能薬」やすぐに効果があらわれる「特効薬」ではない。
しかし、人びとに安心や癒しをもたらし、社会の呼吸を楽にする「常備薬」になることはできる。